

# 1999年度 東松山研修室 報告

柴田敏夫  
(東松山研修室長)

## 1. 研修概況

(1) 本年度は、「法職コース」については学科の司法コースと一体化することでスタートした。すなわち、司法コースを希望する者は選抜試験を行なって1年次からコースに所属させ、同時に法学研究所の法職コースにも所属させることにし、より学習効果が高められるよう配慮した。しかし、各科目の受講者数の増加及び学習効果の向上はというと、結果的に従来と同じような状況のようである。その原因はこれから究明していくことになるが、その1つと目される点は、受講者側の希望・期待が何処に在ったかを十分に把握できなかつたことではないかと考えられる。と同時に、受講者側にいえることは、自分の目的・目標とするものが何なのか確立されていなかったことであろう。さらに目的・目標を持っていてもそれがどの程度の難しさを有するものかの検討が不十分ではなかつたか。

司法試験や国家I種などを受けたという気持ちは分からなくはないが、それがどの程度のレベルの試験なのか殆ど注意していない。難しいという認識すら有していない研修生も見受けられる。したがって、研修講座が始まり専門的な勉強にはいっていくと、それに就いて行けず徐々に脱落していったのか、または外部の受験予備校などの講義に通いだしたのか不明であるが、受験者数は半減した。ことに5月の越後湯沢での合宿以降、筆者の担当科目においてはそうである。これなども何処に原因・理由があるのか、あるとすれば従来と同様の原因なのか、現1年生特有のものなのか不明である。

いずれにしても、現在受講している学生が自分自身で学習しうるところまで教え育んでいく以外に途はないように思われる。年度末に近い今の段階でこの現状では、依然として従来と同様であり、これから学年が進むにつれてどのような状況になっていくのか考えるだに心暗くなる思いがする。受講者数の拡大は受験者母数の拡大とも関係していくので、軽視できないものがある。

(2) 「公務員コース」についても、登録者・受験者ともに、かつてと比べるとジリ貧状態である。こちらからも登録者数の増加が急務といえる。ことに一般教養科目を再開

講するのか、専門科目のみに限定するのかから始まり、抜本的な改善が必要になってくると思われる。幸いにも今年度から板橋校舎においても公務員コースが再開されることになり、受講希望者の増加が予想される。公務員の場合、深くなくてもよいから浅く広く各科目の勉強をしておくことが必要である。一般教養については、本来各人が自分で勉強しておくことが本道であろう。研究所は、たとえば模擬試験などを行なって知識・学力の確実な増加の目安を提供することでよいのではないか。

- (3) 全体を見ていないので一概にはいえないが、積極的に自学自習をし、また質問をしようとする者が皆無に近い。分かっているのであればよいが、そうでないとすれば、学習方法を含めて能率のあがる勉強方法を見つけだせるよう各自再考する余地があろう。はるか彼方を見ることも必要ではあるが、よく現実を見きわめて(いわゆる、「脚下照顧」)、早く現状から脱却し、目標とする試験のレールに乗れるよう工夫・努力してほしい。

## 2. 研修概況

### (1) 研究室について

毎年触れていることではあるが、勉学用・事務用の2部屋がほしい。現在の研修室形態では、効率のよい勉学成果があげられないとの不満を従来から耳にしているので、できれば隣室(534教室)を研修室にするため貸してもらえないものか。もう少し落ち着いて学習できる環境を整備してやりたいものである。もっとも、現在の研修室の利用状況を見ると、そこまで申請できないような現況なので、研修生の活発な利用を望みたい。研修生募集の効果があがり増員という結果となれば、それも実現可能であろう。夏・冬・春の休暇期間中も利用する者がでてくればよいのだが……。

### (2) 出版物・書籍等について

この点については、古いものが多くなってきており、順次新しいものと入れ換えてやりたいと思うが、大学の現在の財政状況を考えると十分な対応はできないため、研修生は、図書館の雑誌・書籍などを利用することも考えてほしい。2000年度は早期に雑誌・書籍の調査をして、できれば予算内で若干の入れ換えをしていきたい。2001年度以降もそれを継続していけるようにしたい。

### (3) 机・照明・ロッカー等について

- ① 机は、現在20席ほど用意されているが、椅子に使用しにくいものがあったりして若干のものが利用されていないようである。しかし利用者が少ないので何とか用は足りている。利用されていない事情なども、次年度は研修生との話し合いの中で見いだしていければと考えている。思いあたるところは、前にも触れたが研修生の

目的意識の問題であろうと思う。本学の研修生にはまだまだその点の自覚が欠けている。この点を考慮して、一定の未利用状況にある場合は机の明渡しをさせるなどして、新規利用希望者に使用させることも考えてよい。

- ② 照明の点については、曇った日など天井の照明がやや暗い感じがするので調査のうえ善処していただければと思う。机上の照明については蛍光灯の取替え用を何本か用意しておく必要があるのでは。
- ③ ロッカーについては、できればもう少し個別収容能力のあるものがほしい。机が狭いためそこに書籍等を置いておくとノートをとるスペースもなくなってしまうような状態であり、現在ただちに必要のないものを収納できるようにしておけばずいぶん効率のよい机の利用ができると思われる。新しいものでなくてもよいので、どこか事務部署で出されたものがあればそれを再利用することで貰い受けるよう考えてみたい。